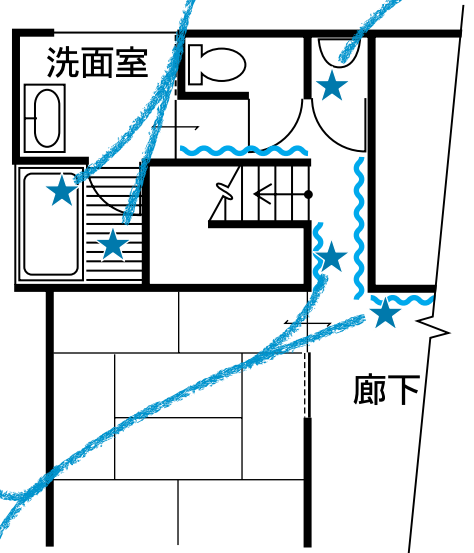


浴室内の手すりとすのこ

浴室は汗を流してお湯にゆっくり浸り、心身共にリラックスする場所です。しかし残念なことに、高齢者の住宅内での事故は浴室で起るものが最も多いそうです。床が濡れていたり、せっけんで滑りやすくなっていたりするため、洗い場での立ち座り・浴槽をまたいで入るなど、足腰の弱ったかたにとっては大きな不安を感じる場所の一つです。

中野さんのお宅では脱衣室の床と浴室の床に、9cmの段差がありました。そこでは、段差を解消するため浴室床にすのこを敷いています。すのこは分割できるようにしているので、清掃や日干しのための取り外しが容易です。

また特に困難な動作が、浴槽への出入りです。浴槽をまたぐ時に身体



Nakano House

のバランスを保てるよう、縦手すりが浴槽の縁に合わせて取り付けられています。

浴室で使用する手すりは、水がかかることを考慮して樹脂製のものを用いられており、濡れた手でも滑りにくくなっています。

浴槽用の手すりは、このように壁に取り付けるもののほか、工事不要で浴槽の縁に設置できるタイプもあります。



廊下沿いのハンドレール

居間からトイレ・洗面室・浴室へ移動する際、長い廊下を歩いていきます。幸運にも手すりを取り付けられる壁がたくさんあり、ご主人は浴室のドアにたどり着くまで、手すり

を使って途切れずにつたい歩きができます。用いられているハンドレールは木製で、手にも優しい触り心地です。「手すりの高さも使いやすい」とのことでした。



バリアフリーの意識

高齢社会の到来に伴い、住環境を取り巻く分野においても様々な改善が行われています。手すり産業の発展も目覚ましいものがあり、より使いやすい製品の研究・開発が進むなか、漆塗りの手すりというテラックス版まで登場してきました。機能だけではなく個々の好みに合わせた手すりを選択できる時代も近いのかも知れません。

身体の変化に合わせて服を着替えるように、住む人間に合わせてよい良い環境をつくるのがバリアフリーの出発点だと思います。心地よい暮らしのために手すりが大きな支えになることを願っています。最後に、急なお願にも関わらず、お住まいを取材させていただいた中野さんご夫妻、本当にありがとうございました。またご助言・ご協力くださいました皆様へ心からお礼申し上げます。